

六月二十五日

十一時前地下鉄有楽町線氷川台で待ち合わせ。Sさん御夫妻と軽井沢の現場へ。十三時〇さん一家と合流し、原木置場見学。径四十五センチメートル程の、モミ、赤松の原木が2米弱に転がさされているのを見る。軸材には使えない。横積みにしてなら使えるかもしれない。十四時半頃、S邸現場。十八時過まで打ち合わせ。幸和建设、棟梁、サッシ屋さん、設備屋さん、電気屋さん。石井君も、まだ常識では若過ぎるとは考えているが、鉄は熱いうちに打てで各、職方との打ち合わせをさせている。二〇時半頃東京帰着。Sさんに中華料理ごちそうになり、二十二時頃地下鉄大江戸線にて帰る。いささか疲れて二十三時頃世田谷村帰着。

六月二十六日 日曜日

九時頃起床。昼前、毎日新聞六車氏より、TELあり。来週食事することになる。毎日新聞、ひと欄に李祖原が出ていた。いい顔して写っている。コラム「伴野一六さん亡くなるの報に接して」書く。

六月二十七日

十四時三菱電機来室。〇邸に関しての綿密な打ち合わせ。十七時照明デザイナー長町さん来室。これも細部にわたる打ち合わせ。十九時半迄。スペシャリストは皆元気だ。二十時半近江屋でW氏と打ち合わせ。二十一時半迄。二十二時半世田谷村。

六月二十八日

十時大学。十時四〇分学部、小試験実施。十二時過了。十三時前、原広司さん講義で来校。ごあいさつ。内部打ち合わせと調整。十三時半過打ち合わせ。その後、一階大会議室での原さんのレクチャー終わりの方だけ聞く。南米のプロジェクトの話。散逸と全体というような基調を持つ話だった。終了後、原さん、中川武氏とおしゃべり。原さんは六十八才になったと言う。昔とあんまり変わっていない。原さんの話し自体はとても解りやすい。しかし、その造形あるいは美学自体の非散逸性、というか、近代主義的な枠組みはガツチリと固い。自由だなと眼に映るところは、皆装飾的なものであると見た。私が考えている開放系技術デザイン論と類似する部分もあり、原さんの場合は自発性、自動性の拡張による、アーキで自律的な都市、その全体を構成すべき自律的部分の構想が二十一世紀建築デザインの主題であろう、と言っている。集落のサーベイの財産をどうデザインとしてまとめるかだろう。

十八時過ひろしまハウス・ブノンペン打ち合わせ。新しい人間に最終段階の設計をバトン・タッチ。四名が引継ぐ。一人、ブノンペンの現場経験が無い者が居たので、ひろしまハウスの歴史を含めて、スライド・レクチャー。振り返ればもう八年以上、この建築には関わっている。研究室内でも何代にもわたって作業がリレーされている。前の担当が残した手の跡をできるだけ消さぬように進めているのだが、それが建築に反映されてくれると良い。二十二時前まで。この建築は、建つ場所もデザインのすすめ方も近代の諸制度から外れているのが価値だと思う。来年で一区切りつくだろうとは希望しているが、まだまだ解らない。二十三時前世田谷村に戻る。